

2020年10月26日

## 2050年までに温暖化ガス排出実質ゼロを達成するという日本のコミットメントに対する気候変動に関するアジア投資家グループの反応

気候変動に関するアジア投資家グループ（AIGCC）のエグゼクティブディレクターであるレベッカ・ミクラ・ライト氏は、2050年に向けて温暖化ガス排出実質ゼロの目標を達成するという菅首相のコミットメントに対して次のように語った：

「2050年までに温暖化ガス排出実質ゼロを達成するという日本のコミットメントは、地球や日本企業にとって素晴らしいニュースだ。気候変動に関するそうした力強い行動が創出する新たな投資により恩恵がもたらされることになる。」

「ニュースの見出しにある2050年という目標は極めて重要なシグナルであるが、投資家は、日本における温暖化ガス排出実質ゼロに向けたスムーズな移行を促す具体的な目先の対策も期待している。それは、エネルギーと温暖化ガス排出に関する2030年までの目標を更新することから始めるということである。」

「日銀や金融庁を含む[中央銀行や金融当局が策定した詳細シナリオについてのAIGCCの分析](#)によれば、地球温暖化を1.5°C未満に抑える目標に沿って秩序ある移行をするには、石炭やガスの使用を制限し、日本のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの比率を2030年までに50%に引き上げることが求められる。」

「日本が2050年に向けて温暖化ガス排出を実質ゼロにするというコミットメントを達成するための秩序ある道筋を歩むには、現在策定中のエネルギー基本計画をレビューすることが極めて重要になる。気候変動リスク等を議論するグローバルな金融当局間のネットワークが作成した気候変動に関するシナリオが、日本のレビューに対して確実に重要な情報を与えるであろう。」

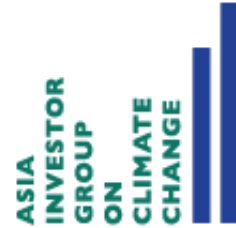
「他の市場での経験から分かるように、日本は目先の明確な目標を設定し、温暖化ガス排出実質ゼロへの道筋に沿った補足的な対策を講じることにより、重要な新規投資の機会を創出することができ、新たな民間資本が自国の産業や社会に投下されるであろう。」

「今回の日本の表明に伴い、今や、東アジアにおける主要3か国が今世紀半ばで温暖化ガス排出を実質ゼロにするという明確な目標を設定したことになる。」

「これはグローバル市場に向けた重要なシグナルであり、アジアの企業や金融機関が温暖化ガス排出実質ゼロに向けた事業計画の変革を加速することに拍車がかかるであろう。」

「AIGCCは、アジア全域で温暖化ガス排出実質ゼロに向けた取組みが勢いを増すよう、気候変動に関するリスクと機会を統合することについて投資家を支援し、各国の企業や政府と連携する準備が整っている。」

# プレスリリース



英語版の追加情報が必要な場合は次の担当者に連絡して下さい：

Tom Arup

戦略的コミュニケーション部門 ディレクター

気候変動に関するアジア投資家グループ

+61402482910

[tom.arup@aigcc.net](mailto:tom.arup@aigcc.net)

日本語版の追加情報が必要な場合は次の担当者に連絡して下さい：

Shin Furuno

政策・プロジェクト部門 シニアマネージャー

気候変動に関するアジア投資家グループ

+817027933648

[shin.furuno@aigcc.net](mailto:shin.furuno@aigcc.net)

## AIGCCについて

気候変動に関するアジア投資家グループ（AIGCC）は、アジアのアセットオーナーや金融機関の中で気候変動および低カーボン産業への投資に関連するリスクと機会についての認識を醸成し、行動を促すための主導的な組織です。AIGCCは、投資活動、信用分析、リスクに関する管理、取組み、方針についてのベストプラクティスを共有し連携するための能力を投資家に提供しています。AIGCCは、気候変動やグリーン経済への移行に関して展開されているグローバルな協議において、国際的な名声や広範なネットワークを活用することにより、アジア投資家の視点を代表して意見を述べています。AIGCCは46のメンバーを有し、それらメンバーの管理下にある資産は9兆米ドルを超えています。 [www.aigcc.net](http://www.aigcc.net)